

クリスマス特集 すべての人を照らすまことの光



高等部
Senior High School

力をくれるもの

高等部3年 落合 奈桜

クリスマスといえば、何を思い浮かべますか。サンタクロース、イエス・キリストなどさまざまでしょう。私が思い浮かべるのは、カラフルなイルミネーションで飾られた青山キャンパスのクリスマスツリーです。

私の所属する聖歌隊では、毎年クリスマスコンサートを開催していて、本番が近づくと毎日のように練習に明け暮れ、くたくたになって青山キャンパスの並木道を帰るのが日常でした。そのとき夜道を照らしてくれたのが、あのツリーです。どんなに疲れていても、そばを通ると自然と上を向いてしまうので、ただそこにあるだけで元気をくれるような気がしました。授業で聖書について学ぶと、私にとってのツリーと同じように、ただそこにあると実感するだけで、安心したり、生きる力がわいてきたりするものが、誰のもとにも存在するのではないかと感じことがあります。クリスマスは、そのことを私たちに教えてくれる特別な日だと思います。



寒空の下で

高等部教諭 神田 信輔

「神が人となられた」と一言に言われても、あまりしつくりとこない自分がいます。神は神なのだから、何でもできる。たとえ人になることさえも容易いことなのではないか、と。しかし、それは神としての全ての権威を放棄するいわば捨て身のご計画であり、最後の手段でした。私たちを深い闇から連れ戻すため、私たちのところへと自ら出向いてくださったのです。

In the bleak midwinter A stable place sufficed
The Lord God Almighty, Jesus Christ.

〈寒々とした真冬のさなか 馬小屋の中で満ち足りておられる。万能の神なる主 イエス・キリスト(クリスティーナ・ロゼッティ作詞、グスタフ・ホルスト作曲のクリスマス・キャロル "In the Bleak Midwinter" より)〉

私たちがもっとも弱く孤独なときに、イエス・キリストは寄り添ってくださいます。そんな主の愛に、私たちはどう応えることができるでしょうか。華やかさ

溢れるこの特別な季節に、神の驚くべき御業を心に留めたいと思います。

2019年度高等部クリスマス礼拝